

マッティー博士を しょうかいします

ジョーダン・モンソン・ライト

ほんとうにあったお話をとくに書かれました

18 73年にブリガム・ヤング大管長が総大会で説教をしていたときの事です。ブリガム・ヤング大管長はこのように言いました。「この山々の谷に女性の医師があらわれる時が来ました。」

16才のマーサ(マッティー)・ヒューズは、預言者の発表を聞いてわくわくしました。ついに、いくつかの医学校が、医師を目指す女性の入学をみとめたことを知りました。医師になることはマッティーのゆめでした。

もちろん、医学校に行く前に、たくさんお金をためなければなりません。大学の学位も取らなければなりません。多くの時間がかかるでしょう。大変な努力が求められるでしょう。それは分かっていました。

でも、マッティーは妹のアニーのことを思いうかべました。アニーはユタへの荷車の旅の途中でなくなりました。アニーが病気になったとき、助けてくれる医師はいませんでした。それから、マッティーの父親もなくなりました。このソルトレーク・シティーで、マッティーは病気にかかったりけがをしたりした人をたくさん知っていました。マッティーが医師になれば、その人たちを助けられます。

マッティーは信仰を持つと決めました。預言者が、女性は医師になる訓練を積むべきだと言ひ、マッティーはその一人になりたいと思ったのです。神は、マッティーが医学校



に行くための方法を見いだせるよう助けてくださるでしょう。マッティーは一生懸命働いてお金をためました。新聞社の植字工として働きました。新聞を印刷できるよう、一文字ずつ、一単語ずつ、慎重に正しい順番にならなければなりません。仕事を終えると、マッティーは大学のク

ラスに行き、医学校のじゅんぴをしました。マッティーは家と仕事場と学校の間を歩き来し、毎日10キロも歩きました! 自分のふだんのくつは、重いだろの中を歩けるほど丈夫ではなかったで、男性用の重たいブーツをはきました。歩く代わりにラバが引く路面電車に乗れたらどんなに良いだろうと思ひましたが、学校に行くためには一銭も無駄にはできませんでした。

マッティーは、十分お金をためられないのではないかと心配でした。母親と義理の父親が助けてくれるだろうとは思ひましたが、かれらにはほかに世話をしなければならぬ子供がいました。ほかに何ができるでしょうか。

マッティーは資金集めのもよおしを開き、友人やワード会員に、出せるお金があればいきょうしてもらえようたのみました。皆、喜んで助けてくれました。マッティーはヤング大管長のよびかけにこたえた、たった3番目の女性で、友人たちはマッティーが成功して医師になるのを望んでいました。

資金集めのもよおしを終え、と、医学校に行くためのお金がたまりました。マッティーは国を横断して大学に行き、一生懸命勉強しました。

2年後、マッティーは堂々と顔を上げ、卒業式の台に向かって行進し、卒業証書を受け取りました。とうとう医師になったのです! そのときほどむねおどる経験をしたことはありませんでした。

マッティーは、拍手をしている見知らぬ大勢の人たちを見ました。家族や地元の友人は一人もそこに来られませんが、かれらがマッティーのことをほこりに思っていて、いと知っていました。間もなく、マッティーは家に帰り、治療をしたり、学んだことを教えたりしました。

ユタ州にもどつて来ると、マッティーはソルトレーク・シティーにある扶助協会の病院につとめました。マッティーはロッキー山脈のそばの暮らしを気に入っていました。また、医師という仕事も気に入っていました。病気を治療し、けがを治し、赤ちゃんの分娩の方法についてのクラスを教えたりもしました。

医師になるには、一生懸命努力しなければなりません。でも、天のお父様はマッティーを愛し、助けてくださいました。マッティーは人を助けることに残りの人生をさげました。●

筆者はアメリカ合衆国ミシガン州に住んでいます。



マーサ(マッティー)・ヒューズ・キャノン(1857-1932年)は、開拓者であり、医師、政治家でした。アメリカ合衆国で州上院議員に選出された初めての女性でした。ひとびとの生活を向上させるために熱心に取り組みました。